

徳川林政史研究所蔵 犬山・中野熊助文書目録



## 凡 例

- 一 本目録は、徳川林政史研究所が古書店から購入した「犬山・中野熊助文書」(全二五四件)の内容を収録したものである。文書名は当研究所で付けた。中野熊助は、尾張家付家老にして犬山城主であった成瀬家の家臣で、諱を隆香、初名を熊次郎といった。文化元年(一八〇四)に生まれ、同一二年に初出仕、文政七年(一八二四)に家督相続して、成瀬家の目付・普請奉行・寺社奉行・勝手方用人・御側御用人などを歴任した。万延元年(一八六〇)の「惣帳」(『犬山市史』史料編四・近世上)によれば、一五〇石・役扶持五人分で、「御側方御勝手兼御記録懸り」を務めていた。明治三年(一八七〇)に六七歳で隠居。馬術や武芸に秀でていたことでも知られている。役職に関わって、成瀬家八代正住・九代正肥との書状のやり取りが残されているのが注目される。熊助および本史料群の詳細については、本書所収の滝口正哉「〔研究ノート〕尾張藩付家老成瀬家臣中野熊助の職務動向と由緒意識」を参照されたい。
- 一 本目録では、各史料について、①番号、②表題、③年月日、④差出(または作成者など)↓宛所、⑤形態、⑥数量、⑦備考の七項目を採録した。
- 一 整理・目録化作業にあたっては、概ね当研究所において過去に整理した順に番号を付与し、配列した。
- 一 表題は、原表題を記し、必要なものについては適宜( )を付して内容を補記した。
- 一 年月日は、原則として史料に記載されている年月日(内容年)を示すこととし、目録作成時に推定した部分については( )を付けて適宜表記

- した。また、年次記載がないもの、おおまかな作成年代がわかる場合には(寛政期)(寛政期以降)(寛政年間)(文化年間)、あるいは(江戸)(明治)などと( )を付して該当する年号や時期を示した。刊本・写本の場合には、その史料が刊行または、書写された時点の年次を表記した。
- 一 差出(または作成者など)↓宛所は、古文書の場合、差出人または作成者を矢印の前の部分に示し、宛所となっている人名を矢印の先の部分に置いた。
- 一 形態については、縦(縦帳)・状(切紙・続紙・折紙)などと示した。
- 一 数量は、文書の点数を示し、包紙がある場合も、包紙は数量に含めていない。
- 一 備考には、史料の概略や状態など、必要と思われる事柄を\*印を付けて適宜表記した。
- 一 本目録は、滝口正哉(非常勤研究員)が目録カードを作成し、仲泉剛(非常勤研究生)が目録カードのデータを入力した。目録カードやデータの内容点検と調整・原稿化作業は、林幸太郎(非常勤研究生)の協力のもと、藤田英昭が担当した。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

熊一 熊助隆香勤書付家譜ニ可載条々(中野熊助履歴)

(明治)

中野氏

縦 一

\*文化十二年二月一八日の初出仕から明治三年九月六日に隠居するまでを記載。書付一点とも(三条小鍛冶宗近作の鎗図、文政一三年一月一〇日、中野隆香写)。

熊二 (巳年正月)三月諸国諸藩風聞書・付辰二月建言書

(明治元年)同二年

西郷隆盛の風聞、郡県制の密説などが記載されている。

縦 一

\*尾張・大垣両藩戦争の風聞、箱館戦争脱走仏人の動向、西郷隆盛の風聞、郡県制の密説などが記載されている。

熊三 (参勤交代之義相改候条ニ付御上意口達写)

文久二年閏八月一五日

縦 一

\*戌・亥・子年の参勤割合を記載。

熊四 (王政御一新ニ付諸通達并風聞等書留)

(慶応四年二月)同四月

縦 一

\*尾張藩に関わる達、徳川慶喜の動向、脱走兵の風聞などが記載されている。

熊五 (大名参勤并御規式御省略ニ付達写)

(文久二年)閏八月

縦 一

会席道具御直段書(受取証)

(慶応四年カ)

伏見屋利兵衛↓中野熊介様

縦 一

辰七月一七日

\*下ヶ札あり。

熊七 諸役人之大意(写)

(江戸)

縦 一

\*役職の職務内容を記載したもの。上書の写しと思われる。軍制改革と関連するか。

熊八 (第二次長州征伐ニ付彦根藩御写)

(慶応二年六月二五日)

井伊掃部頭内今井忠右衛門

縦 一

\*虫損大。判読不能部分も多い。

熊九上 武具類諸書入(袋)

天保五年一〇月三日

中野隆香扣

袋 一

\*袋の中に九二九二の計九点が入っている。

熊九下 (感状写)

(永禄六年癸亥三月八日)

原隼人佐(昌胤)↓窪田大隅守殿

状 一

\*原隼人佐(昌胤)は武田信玄の重臣。内容は箕輪城攻めの功績を賞したもの。

熊九中 (包紙)

(年不詳)

包紙 一

\*丸葉状のもの数点が包み込まれている。

熊九四 (兵隊給祿之儀ニ付取計方書付) (明治三年)午八月 状 一

\*前欠。

熊九五 (大麦・小麦等種蒔ニ付覚) (年不詳)未 横 一

熊九六 (御供旅服之儀ニ付書付) (江戸) 状 一

\*端裏書あり。

熊九七 (本文之趣名古屋表御同家様へも申上ニ付書状) (年不詳)八月二日 治兵衛↓権六様 状 一

熊九八 (刀帯候儀ニ付心得方覚) (江戸) 状 二

\*「松平山城守様衆分心得ニ相伺候」と記載あり。

熊九九 付箋 (江戸) 付箋 一

\*「本文支配御代官所水野ニ而御座候」と記載あり。

熊一〇〇 付箋 (江戸) 付箋 一

\*「殿様御手紙」と記載あり。

熊一〇〇 (包紙) 嘉永四年九月 香積寺↓中野熊助様 包紙 一

\*三州足助の香積寺から東都御屋敷の中野熊助に画一幅とともに送られたことが包紙に記載されている。香積寺(豊田市足助)の開基は、寺伝によると二条良基とその子成瀬基久という。

熊二 (仏道修行之御尋ニ付書状) (江戸) 状 一

熊三 (差ニ関する覚) (江戸) 状 一

熊三 (二宮半右衛門病氣にて差支之節ハ側方御用向心得るべき旨書付) (江戸) (成瀬正住)↓中野熊助 状 一

熊四 (包紙) (年不詳) 天野藤十郎↓成隼人正様 包紙 一

\*「調練一件ニ付申遣候返事」「委細者金兵衛より可申聞候」と包紙に記載あり。

熊五 (今般不得止事為取計候)ニ付書状 (安政三年カ) (成瀬正住)↓(中野熊助) 状 一

辰七月二九日

\*端裏に「辰七月廿九日出、式人前江御下ケ之御書八月三日着なり」と記載あり。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

熊六 (此筆二本相廻シ候間早々相廻シ候様ニ付書状)

(江戸)霜月一〇日

(成瀬正肥)

状一

\*端裏に「大急用 善三郎」と記載あり。

熊七 (女中衣装ニ付覚)

(江戸)三月二日

状一

熊八 覚(三味線ニ付権兵衛・兵助江無急度申聞置候儀ニ付)

(江戸)霜月三日

(成瀬正肥)↓(中野熊助)

状一

\*端裏に「内密 熊助へ」と記載あり。

熊九 秋日詠寄道祝(和歌)

(年不詳)

長保

状一

\*和歌「かみ代よりかはらぬみよのしるしとていまもさかゆくことのはのみち」が記載されている。

熊一〇 (司馬殿御家名御相続之儀ニ付書状案)

(年不詳)

状一

\*紙背にも書状案が記載されている。

熊一一 (老女御人撰ニ付書状)

(江戸)

状一

\*端裏に「再酬御内展 斉隠士」と記載あり。

熊一二 (中野熊助儀寺社奉行兼目付被為蒙仰ニ付祝詞)

(天保二年)九月二日

中野甚太左衛門晴賢(花押)↓中野熊助様

状一

\*端裏に「天保二卯年九月廿一日着便ニ来ル」と記載あり。

熊一三 (当年小吉事初幟ニ付書状)

(江戸)亥年七月八日

↓熊助

状一

\*包紙とも。包紙裏面に「亥年七月八日出」と記載あり。小吉は八代正住の幼名。正住初幟の内容で亥年は文化二二年を示すと思われる。差出人は正住の母(珥和覚左衛門女・夏月院)か。

熊一四 (観音様江納物之義并小吉様体ニ付書状)

(文化末年)

↓熊助江

状一

\*包紙とも。小吉は八代正住の幼名。差出人は正住の母(珥和覚左衛門女・夏月院)か。

熊一五 古代(其地之風聞も承り度ニ付書状)

(江戸)端午

(成瀬正肥)↓熊助

状一

\*端裏に「内密 熊助へ」と記載あり。「此度者京都方之勢強相見へ申候」と記載されている。

熊一六 (両度之御礼品取扱ニ付書付)

(安政四年)六月二〇日

(成瀬正住)↓熊助江

状一

熊二七 \*包紙とも。包紙表面に「書付平安 熊助江」と記載あり。包紙掛紙に「淳教院様御病中之御書也 安政四巳年月」と記載あり。淳教院は八代成瀬正住のこと。  
(昨日預り置候吉田久兵衛内願書・講釈聴聞出席之儀ニ付 (江戸) (成瀬正住) ↓ (中野熊助) 状 一

熊二六 \*端裏に「内密」と記載あり。  
(このわた之儀被仰下其外之儀ニ付書状) (江戸)二月二日 長閑 ↓ 中熊公 状 一  
\*前半部分一部虫損。端裏に「中熊公内密長閑」と記載あり。

熊二五 (角筈へ一筆廻し)申上候ニ付書状) (江戸)九月二〇日 (成瀬正肥) ↓ (中野熊助) 状 一  
\*包紙とも。包紙表面に「内事入 くま助江」、同裏面に「九月廿二日認出」と記載あり。端裏に「くま助へ」とあり。

熊二四 (内密之義重兵衛・瀬兵衛へ内々為見候儀ニ付書状) (江戸)三月五日 (成瀬正肥) ↓ (中野熊助) 状 一  
\*包紙とも。包紙表面に「中野熊助へ」と記載あり。端裏に「内密書」とあり。「内願書至極之出来ニ存候」とも記載あり。本文虫損多い。継ぎ目がはがれ、三つにわかれている。

熊二三 古代(和尚も追々参会・市兵衛丁へも昨日相越其外ニ付書状) (江戸)辰九月九日 状 一  
\*包紙とも。包紙表面に「舌代」と記載あり。端裏に「辰九月九日山岡右門ヲ以御下ケ相成候御書取写」とあり。

熊二二 (月遊梅之画等ニ付書状) (江戸)九月二〇日 乙生拝 ↓ 中熊様 状 一

熊二一 (御役変人氣悪敷事其外ニ付書状) (江戸)一〇月二〇日 茂清 ↓ 隆香(中野熊助)君 状 一

熊二〇 \*端裏に「十月廿六日着」とあり。横井・榭原・田宮の名が記載されている。 波の ↓ 熊助さま 状 一  
\*「波の」は成瀬家の奥女中か。 (江戸・正月)

熊一九 古代(祭礼之節竹物見手弁当ニて借用之義者相叶申間敷哉) (江戸)五日 (成瀬正住) ↓ 熊助江 状 一  
ニ付)

熊一八 (逗留中蒙仰候御差物之儀盆前出来ニ付書状) (嘉永四年)七月二三日 小森 □ □ 三 ↓ 熊助様 状 一

\*端裏に「嘉永四亥年八月朔日着、返事同二日ニ廻ス、此節二条廻し置候」と記載あり。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

熊三 上御請(僧正遷化ニ付)

(江戸)二月二日

中野熊助

状 一

熊三 (兼而御所望ニ御座候処之風外之画今般差上候ニ付書状)

(江戸)九月二五日

香積寺俊龍(花押)↓中野熊助様

状 一

熊三 (笹山様水豆腐并御菓子一箱從御ニ所様より被下其外ニ付書状案)

(江戸)

(中野熊助)

状 一

熊四 (刀劍・矢立・鉄砲拝領ニ付書上)

(江戸)

(中野熊助)

状 一

熊四 (大塩平八郎の乱ニ付今朝承候趣書付)

(天保八年二月二四日)

状 一

\* 大塩の乱はこの年二月一九日に起きている。

熊四 さつと御答(御工夫之趣恐入ニ付)

文政五千午九月六日

水間八郎左衛門↓中野熊次郎様

状 一

熊四 (母儀戸田采女正様方差上置其外ニ付書状案)

(江戸)二月一四日

状 一

\* 去る十一日、赤坂御屋敷御殿内で初めて左次兵衛様に御目にかかったことなどが記載されている。

熊四 (直三郎様御稽古として合羽坂馬場江出御責馬仕度ニ付書付)

(江戸)

状 一

熊四 (遠州井伊谷八幡宮境内井中より出候鎮守宮様ニ付書状)

天保四年五月一四日

状 一

熊四 (中納言様御目見無滞相濟拝領物有之候ニ付書状)

(安政五年カ)四月五日

(成瀬正肥)↓中野熊助へ

状 一

\* 中納言様は尾張家十四代徳川慶恕(慶勝)のこと。

熊四 (公方様名古屋御泊城の様子・玄同様御発駕其外ニ付書状)

(慶応元年)六月二二日

状 一

\* 歩兵百人程白林寺に泊まり「らんほう」(乱暴)のことなどが記載されている。玄同様は尾張家十五代徳川茂徳のこと。

熊四 (角筈隠居様肴等取計之儀并世情風聞ニ付内密書状)

(文久二年カ)五月一九日

(成瀬正肥)↓熊助江

状 一

\* 包紙とも。端裏に「至極内密」とあり。虫損あり。「角筈隠居」は高須松平家十代松平義建(文久二年九月一三日死去)のこと。毛利建白通りになれば京師も穏やかになる旨、竹腰の様子などが記載されている。

熊四 (在府中五百石宛上ケ米仕度ニ付覚)

(江戸)

(成瀬正住)

状 一

\* 前欠か。



熊五 (一宗様二百回御遠忌ニ付仏事取計方等ニ付書状) (江戸)八月二三日 (中野)甚太左衛門↓(中野)熊次郎様

\*熊次郎は中野熊助の幼名。

熊五 (びんさし并手遊品々御廻し被下候ニ付書状) (江戸) ↓熊助江

\*下部虫損あり。女筆。

熊五 (祐左衛門詰解・来月初旬参府ニ付書状) (江戸)四月一八日 (成瀬正住)

\*端裏に「極内密平安」とあり。

熊五 (刀剣形状等ニ付書上) (江戸)

熊五 (漢詩写) (年不詳)

熊五 (教書之内機関の字(機・関の意味ニ付覚) (年不詳)

熊五 (長州賊徒松平右近將監城下襲来自焼ニ付金千両被下書付写) (慶応二年)七月二五日

\*第二次長州戦争の際に浜田城が焼失したことに對する被下金などが記載されている。

熊五 (私身分之儀取扱度々御催促其外ニ付書状) (江戸)

\*一部虫損あり。

熊五 (異国舟存外之大変夫々御手配御誠勤等之儀ニ付書状) (嘉永六年)六月晦日 (高田)治右衛門↓熊助様

熊五 (御逗留中地絹取集上納仕候様御勝手方より被申聞候ニ付書状) (嘉永七年カ)六月一七日 小森□□三↓熊助様

\*端裏に「閏七月十二日返書」とあり。

熊六 (御用之儀候間明日四時出殿可有之ニ付召状) (明治カ)八月一七日 高田務・小池雅人↓中野熊哉殿

\*一部虫損あり。

熊六 (三省一条ニ付備前々発足延引之段・征長一条ニ付前大納言様評判不宜趣等ニ付書状) (慶応元年)閏五月一〇日 (成瀬正肥)↓熊助江

\*端裏に「至極之内密」、「閏五月廿二日御請相濟」とあり。前大納言様は尾張家十四代徳川慶勝のこと。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

熊六三 (横浜之英夷江償金差遣候由ニ付通達写)

(文久三年)四月九日

↓備前侍從殿(池田茂政)・  
主税頭殿(主殿頭・松平忠和)・  
余四丸殿(余四磨・松平昭訓)

状 一

\* 端裏に四月晦日の内容を記す。

熊六二 (只今兼而之願出御下ケニ付書状)

(江戸)二六日

中野↓松平様

状 一

\* この書状はその後「松平様」から「中野」へ返書として送られ、紙面の趣拝承したことが記載されている。

熊六一 (惣裁職江呈上壱封取計ニ付書状)

(文久二年)  
閏月(閏八月カ)五日

(成瀬正肥)↓熊助へ

状 一

\* 端裏に「内密」と記載あり。「惣裁職」は政事総裁職(松平慶永)のこと。成瀬正肥は文久二年に藩内事情を書き付けた文書を松平慶永に提出している。

熊六五 (若様初職ニ付献上物仕候儀等ニ付書状)

(江戸)六月二日

状 一

熊六六 (奥女中着物ニ付書上)

(江戸)

状 一

熊六七 (御供目付人事ニ付伺)

(江戸)七月晦日

中野熊助↓上(成瀬正肥カ)

状 一

\* 包紙とも。成瀬より「兩人共存無之」との返事が記載されている。

熊六八 (古代(長久寺御札相廻・唐人乗込心配其外)ニ付)

(江戸)二月三日

(成瀬正住)↓熊助江

状 一

\* 虫損大。

熊六九 (世良田長楽寺隠居老師堯覚死去致し中陰)ニ付書状)

(江戸)二月一四日

円珠院内一行房  
↓成瀬隼人正様御内 中野熊助様

状 一

熊七〇 (包紙)

(江戸)正月二七日

包紙 一

\* 「返報 熊助江」と記載されている。

熊七〇二 (武鑑之義来月二日出便ニ差出候)ニ付書状)

(江戸)二七日

(中野熊助)↓上(成瀬正住)

状 一

\* 成瀬正住が朱書で「別紙ニ通落手後便を相待居候也」と返事を出している。

熊七〇三 (奥方様御順快の御様子・御若様素読稽古等之模様・  
四谷十二丁目鉄物屋忠蔵石観音堀出候)ニ付書状)

(安政三年〜四年)  
正月二五日

中野熊助↓上(成瀬正住)

状 一

\*二月五日付で成瀬正住が朱筆で返事を出している。奥方様は正住の正室(奥平昌高の女、十一代將軍徳川家斉の正室広大院の姪にあたる)、御若様は成瀬正肥のこと。

熊七 明倫堂江御布告之写 捻教御諭之本書(土の本体ニ付) (江戸)五月 捻教 状

\*虫損一部あり。端裏に「塩尻駅」とある。

熊七二 (菅公の石すり出来ニ付書状) (江戸)九月二六日 井田美翁↓中野熊助 状

熊七二一 (包紙) (江戸) ↓熊助へ 包紙 一

\*包紙に「追々之返事」と記載あり。

熊七二二 (例年淳教院様より被仰付候略歴当年ハ如何可仕哉ニ付書状) (江戸)一〇月二七日 中野熊助↓上(成瀬正肥) 状

\*淳教院様は八代成瀬正住(安政四年九月一九日死去)のこと。正肥は一月五日付で朱筆の返事を出している。

熊七二三 (世田谷豪徳寺東流和尚遷化ニ付書状) (江戸)二月七日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状

\*一二月二〇日付で正住が朱筆の返事を出している。

熊七三四 (田中屋半十郎の歎願之趣ニ付書状) (江戸)一〇月二二日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状

\*正住は朱書で返書を出している(返信日は記されていない)。

熊七三五 (御締向之儀・先達而御廻ニ相成候錫之料金・田中屋半十郎願書ニ付書状) (江戸)二月七日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状

\*一二月二〇日付で正住が朱筆の返事を出している。

熊七四 (本代其外受取ニ付書状) (江戸)八月三日 井田美翁↓中野熊助様 状

\*末尾に花山僧正・在原業平・柿本人麻呂・紀貫之らの詩歌を記載。

熊七五 (六左衛門御盆之義・側向之者武芸稽古之義ニ付書状) (江戸)二月二〇日 (成瀬正肥)↓熊助江 状

\*端裏に「内密」と記載あり。五九一は旧封筒1に収録されていた。

熊七六 (実父より頼之材木・安蘇殿風聞等ニ付書状) (江戸)正月二五日 (成瀬正肥)↓熊助へ 状

\*包紙とも。端裏に「内密」とあり。実父とは丹波篠山藩主青山忠良(元治元年一月死去)のことか。

番号表題	年月日	差出(作成)↓宛所	形態・数量
熊七 (駒吉様田辺流御破門御一条・お糸父精内困窮之旨・御浜御庭にて小普請方乗馬御見分ニ付書状) *包紙とも。包紙に「三月廿五日出」(返事のこと)と記載あり。正肥は朱書で返事を出している。	(江戸)三月十七日	中野熊助↓上(成瀬正肥)	状 一
熊七 (松本数江儀小納戸勤役中御衣紋方心得修行之儀・兼而被仰付候御鳥籠ニ付書状) *正住は七月二十五日付で朱書の返事を出している。	(江戸)七月二日	中野熊助↓上(成瀬正住)	状 一
熊七 (包紙) *「内密」と記載あり。	(江戸)	(成瀬正肥)↓中野熊助へ	包紙 一
熊七 (先日内密一条ニ付書状) *裏面にも書き込みあり。一部破損あり。包紙の筆跡は成瀬正肥だが本文は別。	(江戸)五月二〇日	↓熊助	状 一
熊七 (幕閣の様子・茅場町国益会所廃止・將軍上洛御舟のこと等ニ付書状) *包紙の筆跡は成瀬正肥だが本文は別。春嶽様御盛ん、当時品々御取極板倉殿、この御兩人で大概御決断のことなどと記載されている。	(文久二年)		状 一
熊八 (竹腰鈴木様子吟味のこと・前様尾州へ被為入等ニ付書状) *端裏に「内密」と記載あり。竹腰は竹腰正富、鈴木は鈴木丹後守のこと、尾張でも竹腰は評判が悪いことなどが記載されている。	(文久二年)六月一〇日	(成瀬正肥)↓熊助へ	状 一
熊八 (小番以上之悴無足部屋住ニ而妻ヲ娶候節他問合ニ付返答書状) *包紙とも。包紙に「内密 熊助へ」と記載あり。本紙に「天保三辰九月二日着」と記載あり。	(天保三年)八月二三日	(中野)甚太左衛門↓熊助様	状 一
熊八 (兼而之旧復伺之通り今便一文字に申遣候様ニ相成申候ニ付書状) *端裏に「内密 熊助へ」と記載あり。角筈隠居様とは高須松平家十代松平義建、竹とは付家老竹腰正富のこと。本文とともに松平義建宛の書状が同封されていたと思われる。	(江戸)六月二五日	(成瀬正肥)↓熊助へ	状 一
熊八 (兼而之旧復伺之通り今便一文字に申遣候様ニ相成申候ニ付書状)	(江戸)九月二三日	(成瀬正肥) ↓(中野)熊助・耕斎(高田治右衛門)江	状 一

熊八四 古代(水野彦二郎之志封落手・実父隠居大小譲り呉候旨 (文久二年)六月五日 (成瀬正肥)↓熊助へ

・幕閣評判ニ付)

\*端裏に「内密 熊助へ」と記載あり。「六月十一日着」と貼紙あり。「脇坂(安宅)も又々出申候ニ付世の中変化可致と存候、板倉(勝静)・水野(忠精)両士、尾ニ而もムチヤクチヤニ評判宜敷由」などと記載あり。脇坂安宅は文久二年五月二日に老中再勤。

熊八五 古代(申遣候司兵衛明日より御免之義取計可申ニ付) (江戸)五日 (成瀬正住)↓熊助江 状 一

熊八六 (田宮流稽古追々繁昌之儀其外ニ付書状) (江戸)三月二日 (青木)斎宮↓熊助様 状 一

熊八七 (来月廿日一宗様二百回御遠忌ニ付回向料其外ニ付書状) (文政二年)七月二四日 (中根)甚太左衛門↓(中野)熊次郎様 状 一

\*端裏に「内密御請」、「文政十一子年八月二日着」と記載あり。熊次郎は中野熊助の幼名。

熊八八 (先達而御尋越候一門之祭神之儀其外ニ付書状) (江戸)十一月二日 忠左衛門↓熊助様 状 一

\*端裏に「内事」と記載あり。

熊八九 (御子様方御登り方之義其外ニ付書状) (江戸)七月一日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状 一

\*七月二五日付で正住が朱筆の返事を出している。

熊九〇 (先便奉伺候金子一条・主税稽古之儀・吹上御庭ニおゐて 西洋調練其外ニ付書状) (江戸)四月六日 中野熊助↓上(成瀬正肥) 状 一

\*正肥が付札をして返事を出している。

熊九一 (兵部少輔殿儀御国政向專自己之存意を以被致決断ニ付 弾劾状) (文久二年)六月 御馬廻組 遠山彦四郎↓(中野熊助) 状 一

\*兵部少輔は付家老竹腰正富のこと。

熊九二 (包紙) (江戸)三月二日 (成瀬正肥)↓熊助江 包紙 一

\*「返報」と記載あり。九二〇(元は旧封筒2に収録されていた。

熊九二三 (鬼頭又四郎定府解御地住居之義歎願其外ニ付書状) (江戸)三月九日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状 一

\*三月二〇日付で正住が朱書の返事を出している。

熊九二四 (青山下野守様御養縁之義ニ付書状) (安政)三月九日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状 一

\*三月二〇日付で正住が朱書の返事を出している。成瀬家の養子縁組に関する件。青山下野守様御次男とは青山忠良の次男忠敏のこと。

番号	題	年月日	差出(作成)↓宛所	形態・数量
熊九三	書付(今朝申上候高田之返事差越至極御都合ニ付) *包紙とも。包紙に「返報」と記載あり。「上 中野熊助」と書かれた包紙を裏返して用いている。正住は墨書で返事を出している。	(江戸)二月五日	中野熊助↓上(成瀬正住)	状 一
熊九四	(包紙) *「書付」と記載あり。	(江戸)		包紙 一
熊九五	(先便縁組之儀ニ付而之省略筋ニ付書付) *成瀬氏の養子縁組に関することか。	(安政)三月十七日	(成瀬正住)↓(中野熊助)	状 一
熊九六	(谷村江之沓封存慮違ニ付認替相廻し其外ニ付書付) *端裏に「舌代」と記載あり。	(江戸)五月三日	(成瀬正住)↓熊助江	状 一
熊九七	(包紙) *「返報 熊助江」と記載あり。	(江戸)	中野熊助	包紙 一
熊九七二	書付 (少将様江之御使者相勤喜一郎江委細御沙汰之趣申述候ニ付) *正住は朱書で返書を出している(返信日は記されていない)。少将様は高須松平家十代松平義建のこと。	(江戸)二月七日	中野熊助↓上(成瀬正住)	状 一
熊九七三	(此書付同日朝間屋より差出候ニ付書状)	(江戸)一五日	(成瀬正住)	状 一
熊九八	(武鑑大出来・小吉稽古事一条・奥様体ニ付返報) *包紙とも。包紙に「返報 熊助江」と記載あり。小吉は成瀬正肥のこと。	(江戸)二月一〇日	(成瀬正住)↓熊助	状 一
熊九九	(来ル十二月七日御四十九日ニ付法事役懸書上)	(江戸)		状 一
熊一〇〇	(御城廻り御延引相成候ニ付通知) *端裏に「舌代」と記載あり。	(江戸)二九日	(成瀬正住)↓(中野熊助)	状 一
熊一〇二	(御代一度之御成ニ付書付) *虫損あり。	(江戸)	(成瀬正住)↓熊助初用人其他	状 一
熊一〇三	(年始挨拶・善二郎御暇之儀其外ニ付書状)	(江戸)正月二日	中野熊助↓上(成瀬正住)	状 一

\*包紙とも。包紙に「両度之返報 熊助江」と記載あり。正月一五日付で正住が朱書の返書を出している。

熊二〇三 (奥方様今朝より少々御水腫之御気味・須原屋一条ニ付書状) (江戸)二月二六日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状 一

\*包紙とも。包紙に「返報 熊助江」と記載あり。正月五日付で正住が朱書の返書を出している。

熊二〇四 (中野熊次郎改名他願書書上) (文政二年カ) 状 一

\*包紙とも。包紙に「返報 熊助江」と記載あり。包紙の筆跡は成瀬正住だが本文は別。

熊二〇五 (水道橋様より亜墨利加船絵図面拝借仕写取候ニ付書状) (嘉永七年)二月二六日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状 一

\*包紙とも。包紙に「返事旁 熊助江」と記載あり。三月五日付で正住が朱書の返書を出している。文中、「江川様」「土州之船頭万次郎」「川路様筒井様」などと記載されている。

熊二〇六 (竹腰様より水野様江御駕籠御日覆ごご御用被成度趣) (嘉永七年)七月晦日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状 一

御相談ニ付書状)

\*包紙とも。包紙に「返報 熊助江」と記載あり。閏七月九日付で正肥が朱書の返事を出している。付家老の待遇改善に関するものか。

熊二〇七 (若殿様及び奥方様御様子・須原屋一条ニ付書状) (江戸)正月一六日 中野熊助↓上御請(成瀬正住) 状 一

\*包紙とも。包紙に「返報 熊助江」と記載あり。正月一五日付で正住が朱書の返事を出している。若殿様は成瀬正肥、奥方様は正住の正室(奥平昌高の女、十一代將軍徳川家斉の正室広大院の姪にあたる)のこと。

熊二〇八 (香典五百疋可遣・円珠院へ膝中見舞ニ付書付) (江戸)二五日 (成瀬正住)↓(中野熊助) 状 一

\*端裏に「舌代」とあり。円珠院は六代成瀬正典の側室で今井三左衛門知道女(文化三年二月九日没)のこと。妙感寺に葬、円珠院殿妙得日栄大姉。

熊二〇九 (井伊谷八幡由緒等問合ニ付返書) (天保四年)五月二三日 (中野)甚太左衛門↓熊助様 状 一

\*端裏に「天保四巳年六月六日延着」と記載あり。

熊二一〇 (六郎兵衛方返報等ニ付書状) (天保一四年) 成半左衛門↓中野金左衛門 状 一

\*貼紙あり。熊二〇、熊二一は旧封筒3に収録されていた。  
閏九月二〇日

熊二一一 (尾御家中有志之面々之書取竹一条認め有之ニ付書状) (文久二年)水無月三日 (成瀬正肥)↓熊助へ 状 一

\*端裏に「火中物」と記載あり。「竹一条」とは付家老竹腰正富のこと。

番号	表題	年月日	差出(作成) ↓ 宛所	形態・数量
熊三〇	(包紙) *「御書」と記載あり。	(江戸)	(成瀬正肥) ↓ 熊助へ	包紙 一
熊三一	(包紙) *「御書」と記載あり。	(江戸) 七月二日	(成瀬正肥) ↓ 熊助へ	状 一
熊三二	(庄右衛門より之手紙式封請取ニ付書状) *庄右衛門は植松茂岳のことか。	(江戸)	(成瀬正肥) ↓ 中野熊助江	状 一
熊三三	(大神君御鷹野の節お詠したまふ歌書上) *大神君は徳川家康のこと。	(江戸)	(成瀬正肥) ↓ 熊助へ	状 一
熊三四	(外桜田内用頼之義ニ付書状) *桜田門外の変に関する記事がある。	(元治元年) 甲子八月二五日	↓ 熊助へ	包紙 一
熊三五	(鎗次郎子供片付方之義并一橋拝借金ニ付書状) *包紙とも。	(江戸)	(成瀬正住) ↓ 熊助江	状 一
熊三六	(銀之丞一件ニ付書付) *包紙とも。端裏に「古代」と記載あり。	(江戸)	(成瀬正住) ↓ (中野熊助)	状 一
熊三七	(奥方様御様子・御勘定所御預り金其外ニ付書状) *包紙とも。二月二八日付で正住が朱書の返事を出している。奥様は正住の正室(奥平昌高の女、十一代將軍徳川家斉の正室広大院の姪にあたる)のこと。	(江戸) 二月二日	中野熊助 ↓ 上(成瀬正住)	状 一
熊三八	(包紙) *裏に「文久三亥年九月六日着」と記載あり。	文久三年九月六日	(成瀬正肥) ↓ 熊助江	包紙 一
熊三九	(京都到着後二条様より御菓子拝領其外近況ニ付書状) *女筆。	(文久)	↓ 熊助江	状 一
熊四〇	(新屋敷普請出来のため家老以下引移りニ付書状) *女筆。一五日に江戸城が二ノ丸まで焼失したとの風聞について触れた部分がある(文久三年一月一五日に江戸城本丸・二ノ丸が焼失している)。	(文久三年)	↓ 熊助江	状 一



熊三三 (おたふく大根并丸薬お廻し被下其外ニ付書状) (文久三年四月三日) ↓熊助江 状 一

\*女筆。封筒とも。封筒裏に「年者亥年四月廿三日」と記載あり。

熊三三 (別紙之趣尊君并臨浄院へ可申上趣ニ付書状) (江戸)八月三日 (中野)甚太左衛門・忠左衛門↓権六様 状 一

\*三三、三三は旧封筒5に収録されていた。

熊三三一 (包紙) (江戸)八月 佐々木五郎右衛門↓中野熊次様 包紙 一

熊三三二 (若又返済十二月三而不承知之節取計方ニ付書状) (江戸)八月一日 (佐々木)五郎右衛門↓(中野)熊次様 状 一

熊三三三 (相願候一条御心当の方御聞ニ無之哉ニ付書状) (江戸)八月一日 (佐々木)五郎右衛門↓(中野)熊次様 状 一

熊三四 (兼而青山屋敷明日借用いたし度ニ付書状) (江戸)二九日 (成瀬正住)↓熊助江 状 一

\*包紙とも。包紙に「書付 熊助江」と記載あり。

熊三五 (ぬしや安兵衛へ支払代金書上) 天保一子年五月二八日 中野)甚太左衛門↓(中野)熊次郎様 状 一

熊三三六 (一宗様二百回忌御法事ニ付取計方ニ付伺) 文政一子年六月二四日 (中野)甚太左衛門↓(中野)熊次郎様 状 一

\*熊次郎は中野熊助の幼名。

熊三七 (指弓流稽古出座人其外ニ付書状) (江戸)正月二七日 八郎左衛門↓(中野)熊次郎様 状 一

熊三三六 (此二品今朝松沢藤兵衛ヲ以遠藤様御家来迄差出候処 御差戻ニ相成候ニ付書状) (江戸)一〇月七日 (渋谷)鎗次郎↓熊助様 状 一

\*包紙とも。

熊三三九 (遠州井谷龍潭寺和尚対面ニ付書状) 嘉永六年三月二八日 (中野)甚太左衛門↓熊助様 状 一

\*端裏に「嘉永六丑年四月七日着便ニ而来ル」と記載あり。中野家は井伊家分流中野氏の子孫という。

熊三三〇 (成瀬家家臣人名書上) (江戸) 状 一

熊三三三 (光寿様墓所等御尋其外ニ付書状) (江戸)二月三日 (中野)甚太左衛門↓熊助様 状 一

\*「極内々御晰被仰下候趣御請」と題する奥書に、「御前ニハ尾州家を御離御附之処ハ若殿様江被仰付候様被遊度御頼」と記載あり。「御前」は成瀬正住、「若殿様」は成瀬正肥のことか。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

熊三三 (菓子御礼并京都情勢其外ニ付書状)

(文久三年カ)八月七日

状 一

熊三三 (成瀬駒吉様田辺流御絶門之儀ニ付書状)

文久二戌年三月一〇日

坂野三郎兵衛・横井忠右衛門↓中野熊助様

状 一

\*万延元年時点で坂野は御鷹場懸り一五〇石、横井は御腰物方加役御記録懸り二〇〇石。

熊三四 (稽古能ニ付書付)

(江戸)

状 一

熊三五 (鎗術出精上達隼人正御目鏡を以る鎗ニ被蒙仰候段  
於私茂大慶ニ付礼状)

(文政四年)  
二月二日

田辺源五左衛門常邦(花押)  
↓中野熊次郎様・諏訪部真次郎様・  
平尾兵馬様

状 一

\*田辺は中野熊助(幼名熊次郎)の槍術の師匠。末尾に「文政四辛巳十二月四日組替被仰付」と記載あり。

熊三六 (麒麟血・石榴皮・青木葉配合常薬用製法ニ付書状)

(江戸)

服部和三郎↓名加濃(中野)熊次郎様

状 一

熊三七 (鈔術書差上候ニ付書状)

(文政五年)七月九日

水間八郎左衛門↓中野熊次郎様

状 一

\*冒頭に「文政五年江戸詰之節来り候手紙ノ一」と記載あり。

熊三八 (菩提寺四ツ谷南寺町宗福寺へ御替りニ付書状)

天保二年九月二日

(中野)甚太左衛門↓熊助様

状 一

\*端裏に「天保二卯年九月廿一日着便ニ来ル」と記載あり。

熊三九 口伸(講武場難罷出両三人差出ニ付)

(江戸)九月一四日

虎間助太郎↓中野熊助様

状 一

\*封筒とも。

熊四〇 (於釣様・正之助殿・猶次郎殿今度尾州表江御登りニ  
相成候ニ付立掃御供被仰付者書上)

(江戸)七月

(中野熊助)

状 一

\*高田連・下山助之進・内田久右衛門・成田林蔵・長尾廣助の名前が記載されている。端裏に成瀬正住の朱書で「序ながら申遣候雁皮紙半切一覽済」などと記載あり。於釣様・正之助殿・猶次郎殿は、成瀬正住の弟良徳(茂正)の子供達。

熊四一 (包紙)

(江戸)正月二〇日

(成瀬正住)↓熊助江

包紙 一

\*包紙の上書きに「返報」、裏に「別封年始之返札ニ付序ニ相返可申候」と記載あり。

熊四二 (下野様より被進品ニ付御礼・奥方様御腹痛・須原屋武鑑  
一条其外ニ付書状)

(安政三年)正月一〇日

中野熊助↓上(成瀬正住)

状 一

\*正月二〇日付で正住が朱書の返事を出している。「下野様」は九代正肥実父の青山下野守忠良のこと。正肥は安政二年九月に婚姻。奥方様は正住の正室(奥平昌高の女、十一代將軍徳川家斉の正室広大院の姪にあたる)。

熊四十三 (奥方様御腹痛至而輕被為成・善三郎儀雜用拾五俵被下置 候ニ付礼状) (江戸)正月二一日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状 一

\*正月二〇日付で正住が朱書の返事を出している。

熊四十二 (御養縁御一条・今般年中衣服着用方被仰出候等ニ付書状) (安政三年)正月一七日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状 一

\*正月二五日付で正住が朱書の返事を出している。「御養縁一条」とは正肥の婚儀のことと思われる。

熊四十三 (若殿様御実家江御年賀ニ被為人御乗馬ニ付書状) (安政三年)二月二二日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状 一

\*二月二〇日付で正住が朱書の返事を出している。若殿様御実家とは丹波篠山藩青山家のこと。

熊四十四 (御内室様御着帯祝詞・当家二代目内室百回忌法要・髮剃相求候其外之儀ニ付書状) (天保三年) 初冬(一〇月)二二日 忠左衛門↓熊助様 状 一

\*端裏に「天保三辰年十一月二日着」と記載あり。

熊四十五 (了意公御遠忌ニ付金百疋燧ニ預り申候ニ付書状) (江戸)二月三日 中野甚太左衛門↓熊次郎様 状 一

\*「了意公」は中野家先祖カ。

熊四十六 (亡父袋翁忌日取越追善会ニ付詠歌取計方ニ付書状) (天保二年) よし清 状 一

\*袋翁は横田袋翁(一七四九〜一八三五)のことで国学者・歌人。「袋翁忌日ハ五月十八日にて当年は六年目ゆへ」とあることから、この書状の年代は天保一一年と考えられる。

熊四十七 (来戌三月六日慈庵了意公百五十回忌法事執行ニ付書状) (文政八年)二月二三日 中野甚太左衛門↓熊次郎様 状 一

\*端裏に「文政八酉十二月二日着」と記載あり。

熊四十八 (先頃奉献小目かね・田安様出火丸焼・長州浪人も相応ニ入込候哉之風聞其外ニ付書状) (慶応元年) 中野熊助 状 一

\*包紙とも。包紙に「書付平安 中野熊助」「犬山御目付」と記載あり。端裏に「丑六月十二日」と記載あり。

熊四十九 (八丁堀辺出火ニ付和尚瑞三へ類焼見舞取計方等ニ付書状) (江戸)二月二日 中野熊助↓上(成瀬正住) 状 一

\*二月二八日付で正住が朱書の返事を出している。

番号	表題	年月日	差出(作成)↓宛所	形態・数量
熊五〇	口伸(御馬拝借取計ニ付) *包紙とも。文中に「築地講武所見分」とある。講武所が築地にあったのは安政元年〜同六年正月まで。	(安政)正月一六日	窪田助太郎↓中野様	状 一
熊五一	(俣御世話ニ相成・木挽丁へ御連被下・鎗術仕舞其外ニ付書状) *包紙はないが五と一一緒に折りたたまれていた。そのため、年代は明治四年カ。	(江戸)二月一四日	戸田量無↓中野熊助様	状 一
熊五二	(善三郎様御始メ今之御加章難有・宗福寺江之金子人書封其外ニ付書状) *包紙はないが五と一一緒に折りたたまれていた。そのため、年代は明治四年カ。	(明治四年カ)七月七日	録郎↓熊哉様	状 一
熊五三	覚(御書状壹封受取ニ付) *包紙はないが五と一一緒に折りたたまれていた。	(明治四年)未七月七日	宗福寺役所①↓犬山御藩 中野大象様	状 一
熊五四	口演(不動尊の御釵若様江御かし申其外ニ付) (一昨年より追々御啻合申上候伊賀道具之一件并御懸物類其外之儀ニ付書付) *末尾に「巳十月五日付平尾江懸合手紙下遣候也」とある。五四、六七は旧封筒6に収録されていた。	(江戸)五月一〇日	左々木一関↓中野太郎左衛門様	状 一
熊五五	(別紙明日持参いたし候間加筆之通り清書いたし差出可申ニ付書状) *包紙とも。包紙に「書付平安」と記載あり。	(江戸)四日	(成瀬正住)↓(中野熊助)	状 一
熊五六	(熊助御前ニ再度罷出心底感入候与之御意被遊候ニ付書付) *文政一二年は七代成瀬正寿の代。	文政二二年二月一三日		状 一
熊五七	(熊次郎儀若キニハ奇特之旨御長屋愚母御意之趣ニ付書付)	文政二子年九月一日		状 一
熊五八	(中野家祭神之儀具ニ申上候段其外ニ付書状) *「同十二日着便ス」と記載あり。	天保三壬辰年二月四日	(中野)忠左衛門↓熊助様	状 一
熊五九	(毎度被懸御心見事成花被遊御座辱旨ニ付書状)	(江戸)六月二三日	成南岩山人↓中昌君	状 一

熊二六〇 口上(明十一日晴天ニ相成候節者御下屋敷へ門弟共罷下候儀  
ニ付書状) (江戸)卯月九日 窪田助太郎↓中野熊助様 状 一

\*松平左衛門尉の名前が記載されている。

熊二六一 (浅野民藏支配役名其外ニ付問合) 文化二二年五月二日 中野権六↓中野惣兵衛 状 一

\*本文の下に返答の下ケ札がある。「文化十二亥五月廿一日着」とあり。

熊二六二 (鎗次郎勤且心得方とかくずるけ勝之様子予帰府迄には  
精勤致候様可申聞ニ付書状) (江戸) (成瀬正住)↓(中野熊助) 状 一

熊二六三 (中野与市死後の相続ニ付書状) (江戸)八月二日 重松治兵衛↓中野権六様 状 一

\*権六は熊助の父。重松治兵衛は亡くなった中野与市の兄、与市は中野一族の忠義カ。

熊二六四 (桂舟今般五人扶持頂戴歎之肴可遣旨・方昌二件跡子供之  
見聞ニ付書状) (江戸)初冬二〇日 (成瀬正住)↓(中野熊助) 状 一

熊二六五 (愚妻病氣御尋ニ付礼状) (江戸) 津金理兵衛 忠政(花押) 状 一

熊二六六 (今般書物御渡申候為御挨拶御肴代金百疋被下ニ付礼状) (江戸)四月二日 ↓柏野雲平様・中野熊次郎様・服部和三郎様・  
長嶋岩太郎様・真野伝次郎様 状 一

\*包紙とも。

熊二六七 (御流儀鎗術出精御肴料金受納ニ付礼状) (弘化五年)二月一〇日 田辺四郎右衛門常一(花押)↓中野熊助様 状 一

\*包紙とも。端裏に「弘化五戊申年正月」と記載あり(二月二八日に嘉永と改元)。

熊二六八 武昌仲秋月(漢詩) (江戸) 戸田量無↓中熊助様 状 一

熊二六九 (鎗術御組替之上御相門御引廻し被蒙仰候ニ付書状) (天保三年)九月二六日 加藤彦右衛門↓中野慶八郎様 状 一

\*封筒とも。端裏に「天保三辰年」と記載あり。

熊二七〇 (仲右衛門養女お利江離縁ニ付書状) (江戸)七月四日 中野惣兵衛↓中野権六様 状 一

熊二七一 (近例之儀御尋ニ付返答書) (文化二二年)五月二日 中野惣兵衛↓中野権六様 状 一

\*端裏に「文化十二亥五月廿七日着」とあり。本文に浅野民藏の名前が記載されている。

番号	表題	年月日	差出(作成)↓宛所	形態・数量
熊七三	(田辺殿之吉封御達ニ付書状)	(江戸)二月二日	右門↓御兩人様	状 一
熊七三	聞取書(蛤御門へ長藩勢押懸之儀等京都近況ニ付) *下部一部分欠損あり。禁門の変は元治元年七月一九日。	(元治元年)八月六日	高田治右衛門	状 一
熊七四	内密古代(飯久不慮之事にて香奠銀壹枚差出候ニ付書状)	(江戸)正月晦日		状 一
熊七五	(委細祐左衛門より申越候小供引越之儀安心交看其方持参差出ニ付書状) *端裏に「別紙入書付」と記載あり。	(江戸)六月一〇日	(成瀬正住)↓熊助江	状 一
熊七六	(御本返却延引ニ付詫状)	(江戸)二月八日	水谷八郎左衛門↓中野熊次郎様	状 一
熊七七	(御書被下置候ニ付書状)	(江戸)二月二日	御小納戸方当番↓中野権六様	状 一
熊七八	書取(此間一統用向何之通取計候様可申遣ニ付書状) *包紙とも。包紙に「書付」と記載あり。	(江戸)二月二日	(成瀬正寿カ)↓権六へ	状 一
熊七九	(家臣人名書上) *辻村貢以下全五名の名前が記載されている。	(江戸)	(成瀬正住)	状 一
熊八〇	(光寿様之御事御申伝其外ニ付書状) *端裏に「天保三千辰年閏十一月十二日着便ニ来ル」と記載あり。	(天保三年)閏二月四日	(中野)甚太左衛門↓熊助様	状 一
熊八一	(和学講談所大破ニ付拝借金願) *包紙とも。包紙に「書付 屋代太郎」と記載あり。本文に塙次郎からも別途願書を差し出す旨を記載している。屋代弘賢は幕臣で塙保己一の弟子にあたり、和学講談所会頭を務めた。塙次郎(忠宝)は保己一の四男で、寛政五年(一七九三)設立の和学講談所を自宅としていた。	(天保四年カ) 十一月三日	(屋代)弘賢	状 一
熊八二	(教授院様御卒去ニ付御付女中等取扱方ニ付書付) *教授院は八代成瀬正住の正室(奥平昌高の女、十一代將軍徳川家斉の正室広大院の姪にあたる)。安政五年正月一〇日没。	(安政五年)三月		状 一
熊八三	(役所江貞平治被仰付加役方取扱方ニ付書状)	(文化二二年)五月二日	中野惣兵衛・田中貞平治↓中野権六様	状 一

\*端裏に「文化十二亥五月廿七日着」と記載あり。

熊二八四

(劍術法三条荒増書上二付書状)

(文政五年)八月三日

水谷八郎左衛門↓中熊次郎様

状

\*年代は奥書に記載あり。

熊二八五

(今夕例之とろとろ相催可申繰合三付書状)

(江戸)正月二三日

(窪田)源大夫↓熊助様

状

\*包紙とも。

熊二八六

口上(明日角筈御定日三付)

(江戸)一〇月朔日

窪田助太郎↓中野熊助様

状

熊二八七上

(御用之儀ニ付出殿可有之旨奉書)

(江戸)九月三〇日

小池奥左衛門↓中野熊助殿

状

\*二八七と紐で一括。虫損あり。紐に「呼出状」とあり。小池奥左衛門は万延元年時点では城代家老。

熊二八七下

(出殿奉畏旨請書)

(江戸)九月三〇日

中野熊助↓小池奥左衛門様

状

\*二八七と紐で一括。

熊二八八

浦部流目錄

(江戸)

状

\*二八八三言は旧封筒7に収録されていた。

熊二八九

猪谷流目錄瀉

(江戸)

状

\*端裏に「隆香控」とあり。猪谷家は尾張藩劍術師範家の一つ。

熊二九〇

覚(御用箱等代金請取二付)

(江戸)子三月一〇日

萩屋吉平↓中野様

状

\*萩屋は四谷塩町一丁目に店を構えていた。

熊二九一

覚(廣光拵付刀其外代金三付)

(慶応四年)辰閏四月一七日

状

\*端裏に「辰閏四月十七日伊賀今来候書付之写也」と記載あり。

熊二九二

(鉄砲挺数書上)

(江戸)

状

\*「拾刃玉」などと記載あり。虫損あり。

熊二九三

(猪谷流心得方口伝書上)

(江戸)

状

熊二九四

覚(廣光其外代金等書上)

(慶応四年)辰閏四月一七日

状

\*二九一と関連。端裏に「お源辰閏四月十七日夜書付持参致ス也」と記載あり。

番号	表題	年月日	差出(作成)↓宛所	形態・数量
熊二五五	御返払被下候書付(教授院様召物其外返払ニ付) *教授院は八代成瀬正住の正室(奥平昌高の女、安政五年正月一〇日死去)。 記(諸代金書上)	(江戸)	倉橋重右衛門↓中野大象様	状 一
熊二五六	*「引合」の朱印押印。	(明治)		状 一
熊二五七	(鎗名覚)	(年月不詳)		状 一
熊二五八	覚(御兜・御胴出来ニ付)	天保五年午八月	具足師 藤助(印)↓中野様	状 一
熊二五九	覚(御具足老領御修復代其外受取ニ付)	天保五年午一〇月三日	田中屋藤助(印)↓中野様	状 一
熊二〇〇	覚(盆後謝礼・琴代金ニ付) *「お歌」「おも勢」の名前が記載されている。	(江戸)未二月	重↓於鑄殿	状 一
熊二〇一	(御遺物七品并三十七品書上)	(江戸)		状 一
熊二〇二	(御供人数其外書上) *前欠か。裁断されている。	(江戸)		状 一
熊二〇三	覚(御旗地染四半指物代金請取ニ付)	嘉永六丑七月一九日	御勘定方(印)↓中野熊助殿	状 一
熊二〇四	(瓦并板囲等ニ付仕様書上) *「舜徳院様(七代成瀬正寿)御前廻板囲ひ外」などと記載あり。	(江戸)		状 一
熊二〇五	(国元方・諸侯方外席次等書上) *下部汚損あり。	(江戸)		状 一
熊二〇六	(安永八年・天明二年家中定府書上)	(江戸)		状 一
熊二〇七	ト、メ之サシ様之事(当流トドメの刺し方ニ付)	(江戸)		状 一
熊二〇八	覚(赤銅地金代・鏝下地代金請取ニ付)	文政二三寅六月二八日	白銀師源兵衛(印)↓上	状 一



- 熊二〇九 (金勢丸功能・用方ニ付書付) (江戸) (成瀬正住カ) 状
- 熊二一〇 覚(御脇差直し代金受取ニ付) (江戸)三月 鞘師喜三郎<sup>印</sup>↓中野様 状
- 熊二一一 覚(御兜代金請取ニ付) 天保五年八月六日 三河屋平吉<sup>印</sup>↓松林庄藏様 状
- \*冒頭に「隆香代々求之也」と記載あり。松林庄藏は「新組同心」とある。三河屋は赤坂田町二丁目にある。
- 熊二一二 覚(旗仕立代金其外請求ニ付) (江戸)丑の六月 大丸屋↓御中屋敷御勘定所 状
- 熊二一三 覚(綸子袷御紋付其外直し目録) (江戸) 状
- \*冒頭に「五月七日直ス」と記載あり。
- 熊二一四 (御留の分・御単衣の分・御帷子の分・御平日召其外着物目録) (江戸) 状
- 熊二一五 (中野熊次郎他二名鎗術格別出精ニ付大鎗組替沙汰書) 文政四巳二月四日 ↓熊次郎様 状
- 熊二一六 (御長刀身巻本代金受取書) (天保九年)戊一〇月三日 中村や万吉<sup>印</sup>↓上 状
- \*奥に「天保九戌年夏」と記載あり。
- 熊二一七 (紋付帷子其外明治三年拝領物書上) (明治三年) 状
- 熊二一八 (水谷先生より伝来猪谷流秘伝ニ付書上) 文政二年 状
- \*包紙とも。包紙上書「猪谷流」、裏面に「文政二年六月十三日封之」と記載あり。文書の上部に虫損あり。端裏に「猪谷流秘書也水谷の伝来」と記載あり。猪谷流は尾張藩士猪谷和充が開いた剣術の流派。
- 熊二一九 覚(月代盥・肴包丁・四斗樽・醬油樽外代金書上) (幕末) 状
- 熊二二〇 覚(御小柄代金受取ニ付) (江戸)五月 大黒屋弥一右衛門<sup>印</sup>↓御用小納戸様 状
- 熊二二一 (薬種調合法書上) (幕末) 状
- 熊二二二 (懸刀・待刀其外書上) (幕末) 状
- \*冒頭に「寿泰公御筆」と記載あり。

番号	表題	年月日	差出(作成)↓宛所	形態・数量
熊三三	覚(反物仕立代金書上)	(幕末)		状 一
熊三四	覚(鑑其外代金請求書)	(江戸)亥三月	大岡弥右衛門⑩↓中野様	状 一
熊三五	(中野金左衛門由緒書并勤書) *旧封筒8に収録されていた。	(寛政五年頃)		横半 一
熊三六	(龍潭寺泰法和尚より承候井伊一族由緒ニ付書留) *虫損あり。旧封筒9に収録されていた。	嘉永元年申三月二十九日		状 一
熊三七	節遊亭の記 *旧封筒10に収録されていた。	宝暦三年	藤原朝臣成 正太識	横綴 一
熊三八	(今夕稽古能番組ニ付書状) *「随峯院様御筆」と記載された付箋が貼り付けられている。随峯院様は四代成瀬正幸のこと。「成瀬右近屋敷へ」と記載がある。旧封筒10に収録されていた。	(江戸中期)	(成瀬正幸)	折紙 一
熊三九	(教操院様御遺物被下候義等ニ付日記) *教操院は八代成瀬正住の正室(奥平昌高の女、十一代將軍徳川家斉の正室広大院の姪にあたる)。安政五年正月一日没。旧封筒11に収録されていた。	(安政五年)二月		横半 一
熊三〇	(御祝儀御礼等ニ付書上) *綴紐がとれかけている。文化二年から天保一三年の事例を記載。旧封筒11に収録されていた。	(文化)天保		横半 一
熊三一	金子証文之事(勝手人用差支ニ付) *冒頭に「嘉永五子年十一月五日」と記載あり。旧封筒12に収録されていた。	嘉永五子年一〇月	石河九兵衛他三名 ↓松岡権兵衛殿・中野熊助殿	状 一
熊三二	御屋鋪地面問尺 *明和四年一月の屋敷情報を記す。旧封筒13に収録されていた。	(江戸)寅八月一六日	近藤才右衛門	状 一
熊三三	(従大納言様御国織縮緬其外被下置候ニ付礼状) *包紙とも。包紙上書「進上 隼人正様」と記載あり。旧封筒14に収録されていた。	(江戸)二月三三日	源尹祥(森伝衛門)↓隼人正様	状 一

熊三三四 (天保三辰年閏十一月四日琉球人登城之節献上物書上) (天保三年閏二月)

\* 旧封筒15に収録されていた。

熊三五 (東禪寺事件風聞書) (文久二年)

\* 後半は「諸大名魚見立」の写し。旧封筒16に収録されていた。

熊三六一 (包紙) (天明二年)

\* 「京堺 御屋敷書付」と記載あり。三六一、三六二は旧封筒17に収録されていた。

熊三六二 (松平周防守様御内々御尋ニ付天明二寅年八月四日) (天明二年)

境沢嘉兵衛持参御用人高浜直右衛門を以指出候扣

(成瀬正成泉州堺政所被仰付ニ付)

熊三六三 (泉州堺柳町浜ニ而権現様成瀬隼人正様御拝領御屋敷地 天明二年寅八月)

図面)

\* 坪数等書上と屋敷図。

熊三六四 (泉州堺柳町浜ニ而拝領御屋敷地面図) (天明)

熊三六五 (堺御屋敷間取図写) (天明)

熊三六六 (堺御屋敷間取図写) (江戸)

熊三七七 (井伊共保略歴写) (江戸)

\* 旧封筒18に収録されていた。

熊三六一 (包紙) (江戸)

\* 上書「御書」と記載あり。三六一、三六二は旧封筒19に収録されていた。

熊三六二 (覚(延寿院様御遺物被下候ニ付) (天保)

\* 延寿院様は七代成瀬正寿の正室のこと。

熊三六三 (中野金左衛門宛御意) (江戸)正月・六月 中野金左衛門

\* 知行代八拾石被下御意と御目付役被仰付御意の二通を裏打紙によって貼り合わせている。

番号表題

年月日

差出(作成)↓宛所

形態・数量

熊三三 拝借仕金子之事(元金拾両也)

明治二年巳二月

出来町村陣兵衛他二名  
↓中野大象様御屋鋪・広瀬久四郎様御取次

状 一

\*三三、三〇は旧封筒20に収録されていた。

熊三四 建物売渡証券(住居家一軒売渡ニ付)

明治二年二月二七日

伊賀乗勢④・天野八郎④↓中野大象殿

状 一

\*印紙一カ所貼付あり。

熊三四 (年始挨拶ニ付書状)

(江戸)初春二六日

成瀬正住↓通応大和尚

折紙 一

\*包紙とも。通応は通応宗徹(一八〇一〜一八五四)で尾張清洲生れの臨濟僧のこと。旧封筒21に収録されていた。

熊三四 来辰年御年回調

(江戸)

状 一

\*妙琳様他六名の記載。

熊三四 (明十日可罷出処下稽古并重陽ニ付書状)

(江戸)重陽当賀  
(九月九日)

助太郎↓熊助様

状 一

\*文中に重陽の記載あり。

熊三四 成瀬氏世譜国字伝 卷之一(写本)

(江戸)

(中野隆香)

縦 一

熊三四 成瀬家国字伝 二(写本)

(江戸)

(中野隆香)

縦 一

熊三四 成瀬家国字伝 三(写本)

(江戸)

(中野隆香)

縦 一

熊三四 成瀬家国字伝 四(写本)

(江戸)

(中野隆香)

縦 一

熊三四 成瀬家国字伝 五(写本)

(江戸)

中野隆香

縦 一

\*卷末に「天保八年酉夏五月謹写 中野隆香」と記載あり。

熊三四 正成公御遺訓書(写本)

(江戸)

中野熊助

縦 一

\*卷末に「天保三壬辰年十一月十三日謹写 中野熊助」と記載あり。

熊三四 正成公御遺訓書(写本)

(江戸)

中野隆香

縦 一

\*表紙に「中野隆香藏書」と藏書印(朱印)がある。卷末に「右天保三壬辰年六月二日写之 中野隆香」とある。

熊二五

成瀬正親覚書(写本)

(江戸)

中野隆香

縦

一

\*表紙に「慶応二丙寅正月写之 中野隆香写」と記載あり。

熊二五

成瀬家系図并附系(写本)

(江戸)

\*綴じられていない。

熊二五

御家御忌日記(写本)

(江戸)

中野

縦

一

\*「中野隆香蔵書」の蔵書印あり。

熊二五

(御家服忌令其外写本一括)

(江戸)

\*綴じ目がとれていてバラバラの状態。

縦

一

